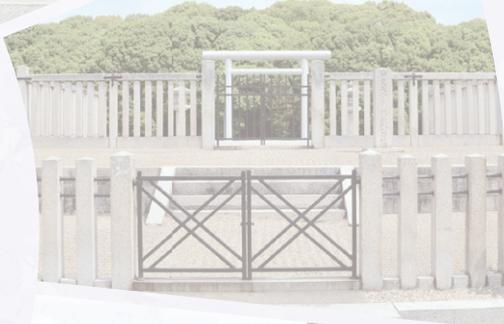


地域別構想





地域別構想とは、第4章の「将来都市構造・拠点配置」の中で示した「地域レベル～駅勢圏やコミュニティ単位のまちづくり」の考え方にに基づき、身近な「わがまち」として認識でき、さまざまなコミュニティ活動が展開される範囲として、市域を北西地域、北東地域、南西地域、南東地域の4つに区分し、今後10年間でそれぞれの地域の特徴や市民の意向等を踏まえた形でまちづくりを展開していくための計画です。

■ 地域別構想の地域区分



地域別構想では、4つの地域で活かしていきたい資源や特徴、今後10年間で取り組んでいくべき課題を整理し、その上で、地域の特性を活かした形で将来像・目標を設定し、その実現に向けた方針、取り組みを記載しています。

【より実感のわく、身近な「わがまち」の計画へ】

市民目線で地域のみなさんがまちをよくするために生活目線で考えたことと、行政の取り組みをあわせて記載した、いわば身近な「わがまち」の計画としていくことをめざし、市民が参加するワークショップ「藤井寺まちづくりカフェ」での議論を経て、地域別構想を作成しました（「藤井寺まちづくりカフェ」の開催経過は参考資料（151ページ）に掲載しています）。

そのため、本計画では行政が主となって取り組むものだけでなく、市民が主体となって取り組むものも含めて記載しており、行政と市民、双方がこの地域別構想を共有しながら、協働でまちづくりに取り組んでいく指針となります。



藤井寺まちづくりカフェの様子

【地域別構想と全体構想が相互に連携を図りながら機能する計画へ】

全体構想では、広域的あるいは全市的な視点から、都市の魅力を増やすための方針や都市づくりを支える方針を示しました。

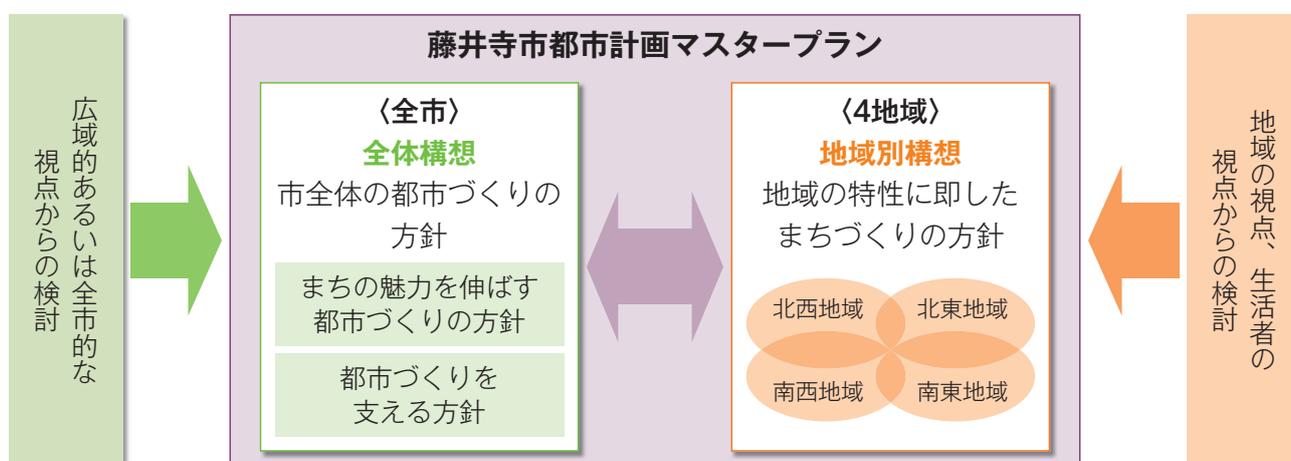
それに対して地域別構想では、地域の視点、とりわけ地域に暮らす生活者の視点から見た地域の課題を踏まえた上で、その地域の特性や魅力を活かしたまちづくりを今後10年間でどう進めていくのか、という観点から目標、方針を記載しており、地域の課題に即して特化した柱立てとなっています。

地域別の方針図においても、地域の課題に対応した取り組みを図示するとともに、行政が取り組む主要な事業等も反映しています。

なお、各地域の課題や方針には、市全体で取り組むべきものもあり、それらの考え方は市全体に共通するものとして、全体構想に反映・記載しました。

そのため、本計画では全体構想と地域別構想は相互に連携を図りながら機能させるべきものとして位置づけています。

■ 全体構想と地域別構想の関係



1. 北西地域

1 地域の概況

北西地域は、地域の北側は大和川に接し、南北を八尾市、近鉄南大阪線、東西を松原市、羽曳野市、(都) 柏原羽曳野線(国道170号(大阪外環状線))に囲まれている地域です。

地域西側を南北に貫通する(都)八尾富田林線の整備が計画されています。

藤井寺駅周辺には商業・業務施設等が集積しており、本市の都市拠点となっています。大規模商業施設の建て替えも計画されており、一層拠点性が高まることも期待されます。

地域内には、小中学校に加え府立藤井寺高校、藤井寺工科高校が立地するなど学校が多い地域で、また、藤井寺市役所や市民総合会館本館(パープルホール)、大井水みらいセンターなど、公共施設も多く立地しています。

歴史文化資産も多く、地区内を長尾街道が通っており、善光寺などの寺院も多数点在しています。津堂城山古墳と、ガイダンス施設「まほらしろやま」が整備されており、住民にとって親しみある空間となっています。

また、恵美坂住宅地や小山藤の里住宅地など比較的ゆとりのある緑豊かな良好な住宅地が形成されていることも特徴です。



①人口・世帯数の推移

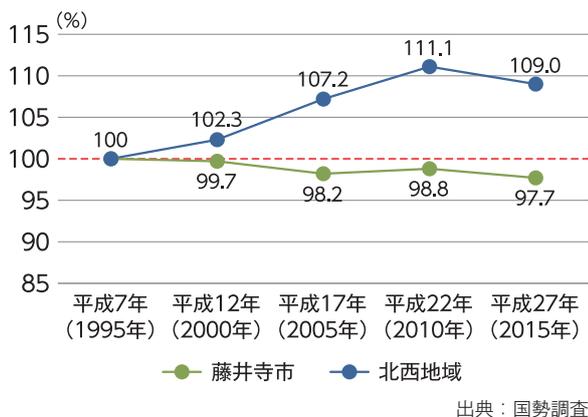
- 人口・世帯数ともに、平成7(1995)年～平成22(2010)年まで増加傾向にありますが、平成27(2015)年に人口は減少しています。人口よりも世帯数の増加率が高くなっていることから、核家族化が進んでいると考えられます。
- 全市と比較すると、平成22(2010)年までの人口増加は顕著ですが、平成27(2015)年は全市に比べて人口が減少しています。
- 年齢別の人口構成については、全市に比べやや65歳以上の人口割合が低く、15歳未満の人口割合が高くなっています。

■ 人口・世帯数の推移

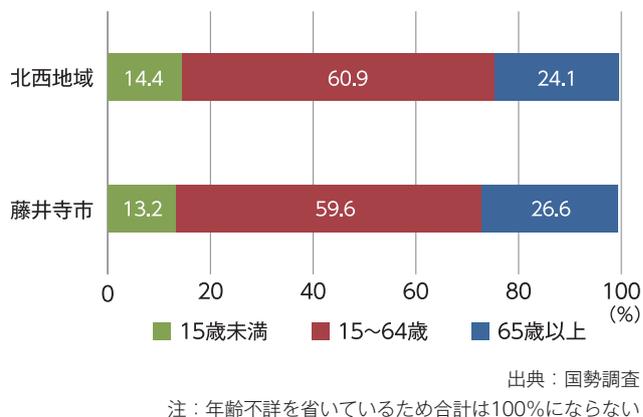


出典：国勢調査

■ 人口の推移 (全市との比較)



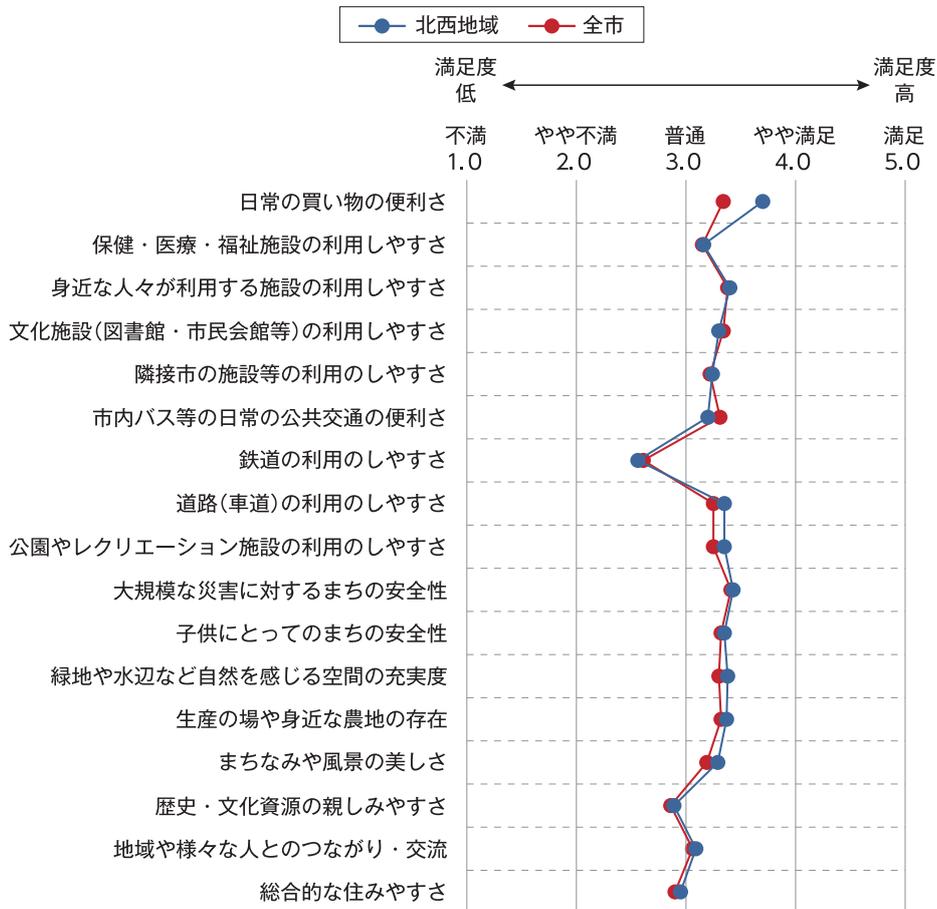
■ 年齢別 人口構成 (平成27 (2015) 年)



② 市民アンケート調査の結果

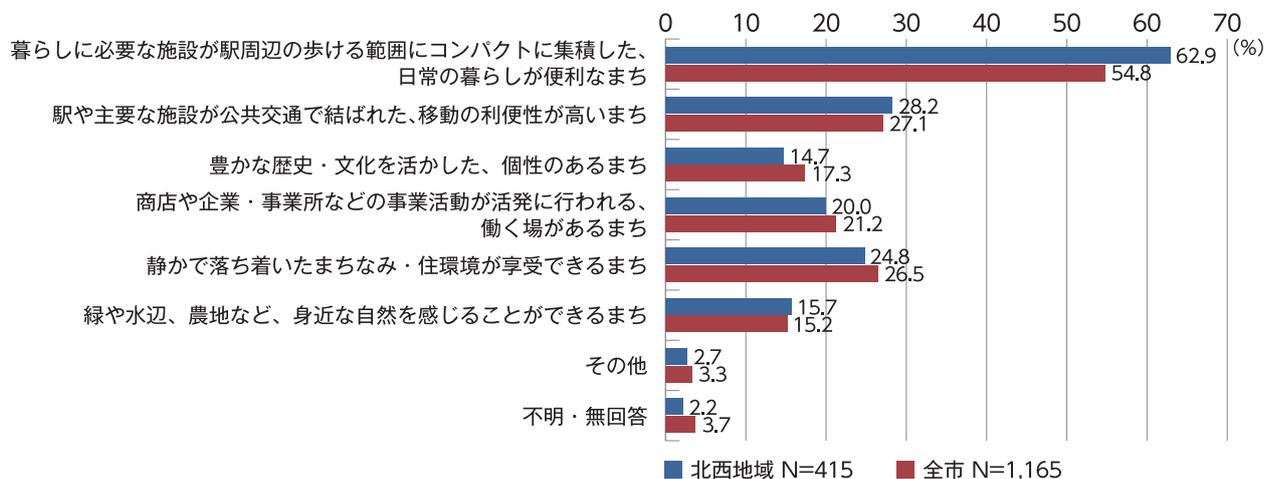
⑦ まちの暮らしの満足度

- ・北西地域は全体的に満足度が高い傾向にあり、特に日常の買い物や道路の利用に関しての満足度が高くなっています。



① 概ね10年後をイメージした将来の姿

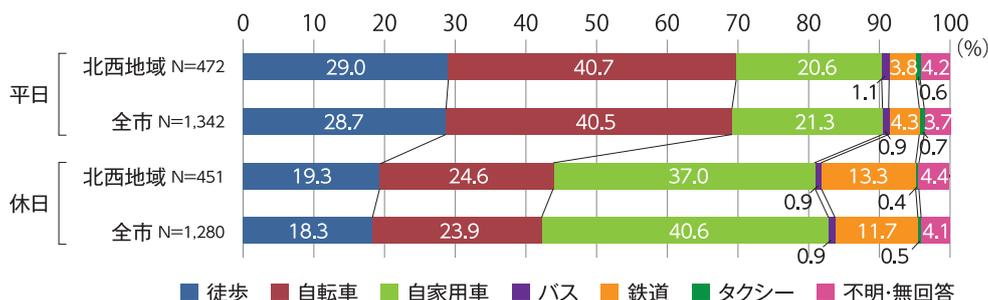
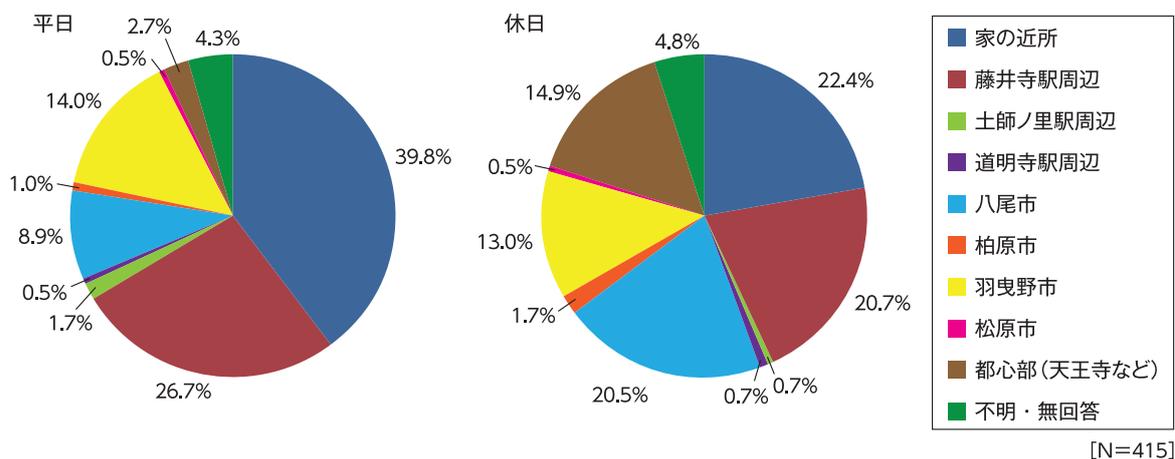
- 日常の暮らしや移動の利便性のよさを挙げた人が多く、全市と比べても多くなっています。



⑦ 地域でのふだんの暮らしの様子

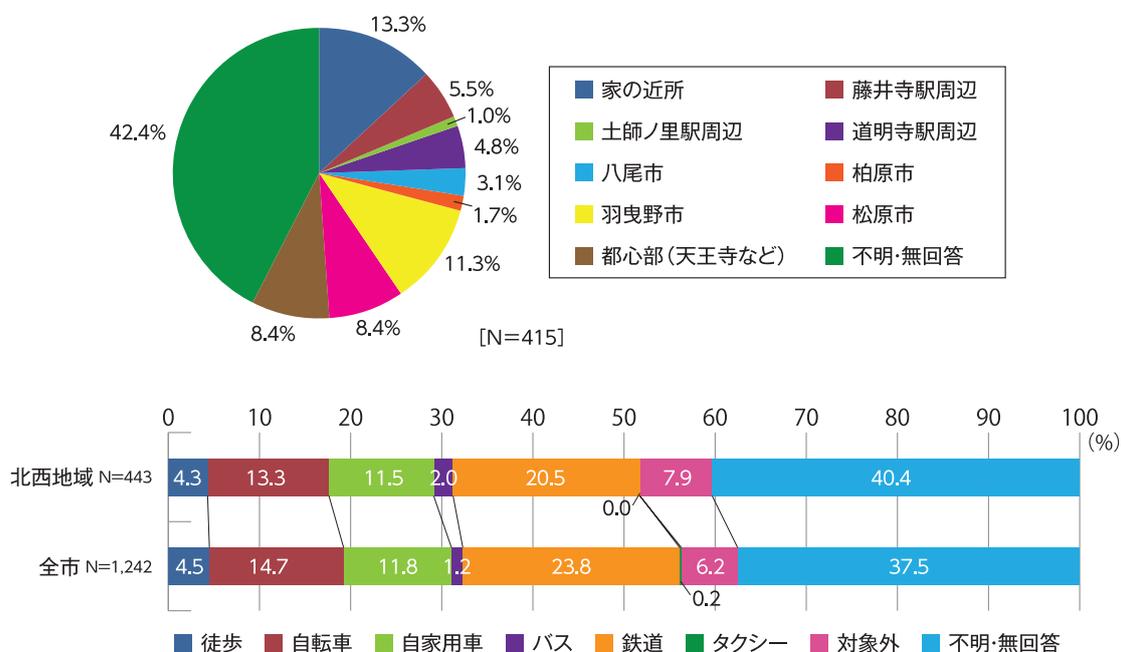
【ウ-1：買い物の利用場所、交通手段】

- 平日は徒歩 (29.0%) や自転車 (40.7%)、自家用車 (20.6%) で家の近所 (39.8%) や藤井寺駅周辺 (26.7%) への買い物に行く人が多く、休日は徒歩 (19.3%) や自転車 (24.6%) のみならず自家用車 (37.0%) や鉄道 (13.3%) を利用して八尾市 (20.5%) や天王寺などの都心部 (14.9%) まで買い物に行く人が増えます。この傾向は全市と同じです。



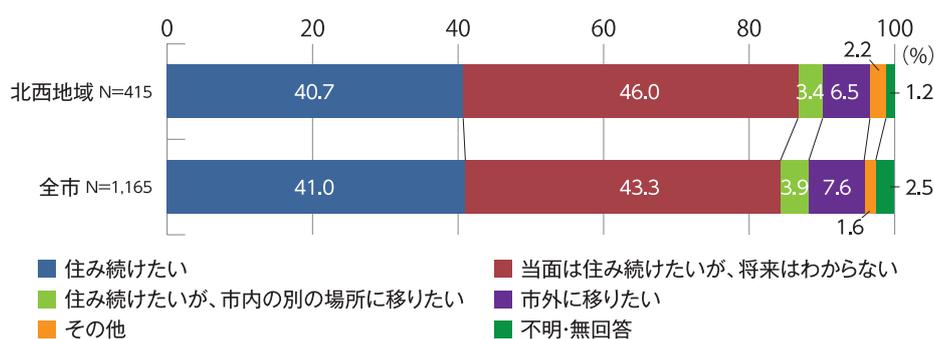
【ウ-2：通勤通学の場所、交通手段】

- 通勤通学の場所は家の近所(13.3%)に次いで羽曳野市(11.3%)が多くなっており、交通手段は鉄道(20.5%)が最も多く、自転車(13.3%)、自家用車(11.5%)の順になっています。
- 場所、手段ともに全市と同じ順となっています。



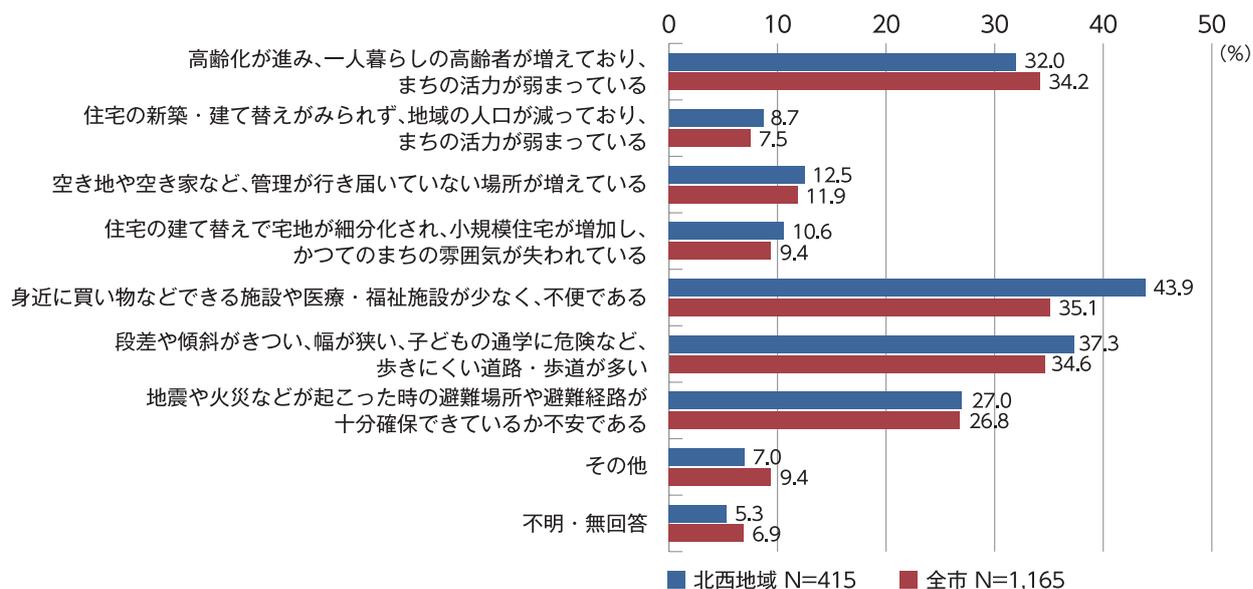
【ウ-3：地域の定住意向】

- 地域に住み続けたいという人は将来わからない人も含めると86.7%にのぼり、全市と比較しても住み続けたい人は多くなっています。



【ウ-4：身近な住環境で生じている課題】

- 身近に買い物などできる施設や医療・福祉施設等が少ないことを挙げた人が43.9%と最も多く、その割合は他の地域と比較しても多くなっています。
- 次いで段差や傾斜のきつさ、道路幅の狭さなどによる道路や歩道の歩きにくさ(37.3%)、高齢化によってまちの活力が弱まっていること(32.0%)の順にあげる人が多くなっていますが、まちの活力が弱まっていることを挙げた人の割合は全市の中で最も低くなっています。



【ウ-5：まちづくりに活かしていきたい資源】 ※括弧内は件数

〈人〉

適度で良好な近所付き合い (32) / 子どもの通学時の見守り運動 (22) / 高齢者を見守る環境 (6) / 清掃・美化活動 (7)

〈もの〉

古墳 (城山古墳、古室山古墳) (47) / 川や緑などの自然 (28) / 寺社仏閣 (葛井寺、辛國神社等) (22) / 歴史的な街並み

〈こと〉

お祭り (36) / 運動会や自治会が開催するイベント (19) / 清掃活動 (7) / ボランティア (2)

【ウ-6：地域で「気持ちが良い」「ほっとする」ような場所】 ※括弧内は件数

- 津堂城山古墳 (古墳・公園・花壇・周辺のウォーキングコースなど) (63)
- 葛井寺 (32)
- 大和川 (川・河川敷・堤防・遊歩道・サイクリングロードなど) (29)
- 辛國神社 (26)
- 駅の周辺 等



2 地域の課題

①狭あい道路が多く住宅地内の通過交通も多いため危険箇所の改善と、堺大和高田線における渋滞対策が必要です

- 街道や昔からの集落の道路が分布しており、狭あい道路が多く、また南北方向の通過交通も多いため、歩行者の安全確保が重要な問題となっています。
- 時間帯を区切った通行規制や、危険箇所の点検を地域や行政が協働で行っているものの、学校付近の通学路などの安全対策、危険箇所の改善が課題となっています。
- 今後、大規模商業施設が整備されることで、(都)堺大和高田線(府道堺大和高田線)から迂回路として生活道路に自動車が流入し、一層危険性が高まることも懸念されます。
- 加えて、大規模商業施設の開設にともない(都)堺大和高田線(府道堺大和高田線)の交通量が増加し、渋滞が発生することも懸念されます。

②子ども等が集い遊べる公園等のさらなる利活用が必要です

- 地域内に公園が点在しているものの、利用者ニーズを十分に満足できていません。
- 一方で、津堂城山古墳やふじみ緑地などが存在しており、これらもうまく活用しながら、子ども等が集い遊べる公園等のさらなる利活用を進めていく必要があります。

③藤井寺駅北側の魅力や回遊性の向上が必要です

- 藤井寺駅北側では基盤整備が終了し、まちの顔としての空間整備がなされました。今後は、整備される大規模商業施設ともあわせて、民間事業者と商店街、まちづくり協議会等が主体となって、藤井寺駅北線を軸とした魅力ある空間づくりや、歩いて楽しめるまちづくりが必要です。

④地域の豊かな歴史を認知してもらい、まちづくりに活かしていくことが必要です

- 古市古墳群で最古の大型前方後円墳で、散策もできる市民憩いの場である津堂城山古墳、善光寺、長尾街道と往時の面影を今に伝えるまちなみなど、豊かな歴史を感じられる場所が多くあり、そうした歴史文化資産等を地域住民に十分に認知させていく必要があります。
- 地域内には古い民家等が点在しているものの、それらが一体のものとして体感でき、人の流れを創っていく必要があります。商店街も含めた回遊性の向上も課題となっています。
- 地域に存在する歴史・文化の価値を共有し、地域の特徴としてまちづくりに活かしていくことが必要です。

⑤大井水みらいセンターや大水川散策公園、大和川沿いの一体的な魅力の発信が必要です

- 大和川に接しており、大阪府の大井水みらいセンターは桜の名所として親しまれているほか、大水川散策公園など市民に人気の場所在していますが、これら自然を感じられる空間を一体的に楽しめる魅力を発信していく必要があります。

⑥津堂・小山地区の市街化調整区域の土地利用のあり方の検討が必要です

- 津堂・小山地区には市街化調整区域があり、現状では農地が広がっていますが、(都)八尾富田林線の整備が計画されています。
- 都市計画道路の整備を契機に、土地所有者も含め、土地利用のあり方やまちづくりの方向性について検討していく必要があります。

③ まちづくりの将来像

子どもも大人も元気で安全・安心・快適に暮らせるまち 歴史や自然をつなげて活かすまち

北西地域は、藤井寺駅を中心ににぎわいあるまちが形成され、大規模商業施設の建て替えも進んでいます。

その一方で、車両交通が多く危険な箇所や狭あい道路が存在するほか、公園が住民のニーズに十分対応できていない、オープンスペースが活用されていないなど、特に子どもたちが安心して遊べる環境づくりが課題です。

子ども目線で安心して遊べる場所づくりや危険箇所の改善など、子どもが元気で、安心・安全で暮らせる環境を創り、将来も子どもたちがこのまちにいたいと思うようなまちをめざします。

また、津堂城山古墳や長尾街道、善光寺などの歴史文化資産、大和川や大井水みらいセンター、大水川散策公園(翠花堤苑、彩花堤苑)などの自然を感じられる空間もあるほか、市内では学校が多い地域となっています。

こうした歴史や自然を保存するだけでなく、住民の活動などを通じて新たな機能を導入しながらうまく活用していくまちをめざします。



4 まちづくりの方針

①自動車と歩行者が共存した安全・安心なまちづくり

- 地域内の主要な道路において、自動車の通過交通は抑制しつつ、危険箇所の改善などに地域と行政が協働で取り組みながら、歩行者や自転車が安全・安心に通行できるような環境整備を進めます。

| 行政主体 | 協働 | 市民主体 |
|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • 通学路や通行における危険箇所については、カーブミラーや街路灯の設置、道路改良などによる安全対策に取り組みます。 • 災害時の避難や緊急車両の通行確保のため、主たる生活道路における狭あい部分の解消に取り組みます。 | <ul style="list-style-type: none"> • 地域内の危険箇所についての点検や意見交換を行います。 • 通過交通に対する対策について地域住民と協議し進めます。 • 道路整備に係る住民との対話・協議の場を設け、道路整備プロセスの透明化を図ります。 • 交通安全、防災、災害応急対策の観点から、狭あい道路の解消に向け地域とともに取り組みます。 | <ul style="list-style-type: none"> • 交通ルールの遵守や意識啓発に取り組みましょう。 • 道路の危険箇所を共有するマップ等を作成しましょう。 |

②公園を含めた古墳や緑地など身近なオープンスペースを充実させるまちづくり

- 古墳や緑地など身近なオープンスペースが、子どもらにとって集まり遊びやすい空間となるように、整備や活用のあり方を検討します。

| 行政主体 | 協働 | 市民主体 |
|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • 公園だけでなく子どもが安全に遊ぶことができる空間づくりに取り組みます。 | <ul style="list-style-type: none"> • 地区内のオープンスペースのあり方を周辺住民と協働で話し合います。 | <ul style="list-style-type: none"> • 津堂城山古墳やふじみ緑地などのオープンスペースを積極的に活用しましょう。 |

③藤井寺駅北側の訪れたい魅力を高めるまちづくり

- 民間事業者と商店街、まちづくり協議会等が連携しながら、藤井寺駅北側で歩いて楽しめる、訪れたい魅力高めるまちづくりを進めます。

| 行政主体 | 協働 | 市民主体 |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • 大規模商業施設の整備に際して、地域の魅力向上の視点から協議・調整を行います。 • 商店街やまちづくり協議会など地域の主体的な活動、取り組みを積極的に支援します。 • 駅周辺のまちの顔としての景観形成、誘導等に取り組みます。 | <ul style="list-style-type: none"> • 沿道の魅力ある景観づくりの方向性や、回遊性の向上のあり方などを関係者が協働で話し合います。 | <ul style="list-style-type: none"> • 店舗の軒先での演出など、店主や民間事業者が景観形成を意識した取り組みを進めましょう。 • 駅周辺の空間等も活用し、魅力を発信するイベント等を実施しましょう。 |

④地域の歴史を活かした回遊できるまちづくり

- 津堂城山古墳や善光寺など、地域内に点在する歴史文化資産等を結び、地域の歴史の厚みや豊かさを魅力として発信できるようなまちづくりを進めます。

| 行政主体 | 協働 | 市民主体 |
|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • 古墳周辺の歴史・文化に配慮した都市づくりを進めます。 • 歴史文化資産を回遊できる重点ルートを設定し、カラー舗装やサイン整備等に取り組みます。 | <ul style="list-style-type: none"> • 藤井寺駅周辺を起点に地域の歴史文化資産や商店街を楽しく回遊できる取り組みを検討します。 | <ul style="list-style-type: none"> • 住民一人ひとりが身近な歴史・文化の存在を意識するように心がけましょう。 • 地域の歴史文化資産を知ってもらうための歴史の学習や、歴史文化資産を活かした活動に取り組みましょう。 • 新築や建て替えの際などにも歴史・文化を意識しましょう。 |

⑤大井水みらいセンター周辺のオープンスペースを活かした魅力あるまちづくり

- 大和川沿いから大井水みらいセンターを魅力ある空間にすべく、歩行者空間のネットワーク化を検討するとともに、住民による維持管理活動に取り組みます。

| 行政主体 | 協働 | 市民主体 |
|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • 大井水みらいセンター及び大井水川散策公園を核とする歩行者空間のネットワーク化を検討します。 | <ul style="list-style-type: none"> • 魅力ある空間としての使い方や発信方法について話し合います。 | <ul style="list-style-type: none"> • 住民による河川空間の維持管理活動に取り組みましょう。 |

北西地域一方針図

- ◎津堂城山古墳を中心とした歴史・文化に配慮した都市づくり
- ◎津堂城山古墳・ふじみ緑地における子どもが使いやすい環境整備

- ◎市街化調整区域の土地利用の検討
(都市的土地利用を図る区域の市街化区域への編入、それ以外の区域の農地の保全)

- ◎(都)八尾富田林線の早期整備に向けた働きかけ
- ◎(都)八尾富田林線の整備とあわせて沿道のまちづくりの検討

- ◎内水被害対策に向けた整備の推進
(西水路雨水幹線)

- ◎特に通過交通の多い路線として安全・安心な道づくりの検討

- ◎(都)堺大和高田線の整備の要望
- ◎大規模集客施設の影響を見据えた道路整備の要望

- ◎まちの顔として整った景観形成、回遊性の向上

- ◎藤井寺駅北側の大規模商業施設や高等学校、商店街による商業集積を活かした魅力あるまちづくり

<その他、地域全体に関すること>
 ◎災害に備えた安全、安心なまちづくりの推進
 ◎地域の特性に応じたみどりの保全、創出
 ◎農地の保全 など

| | |
|--|---|
| 公共施設 ● 市役所(支所) ● 図書館 ● 公立公民館 ● 集会施設・ホール・体育館等 学校 ● 小学校 ● 中学校 ● 高等学校 ● 特別支援学校 幼稚園・保育所 ● 幼稚園 ● 保育所 | 歴史・自然資源 ■ 古墳 ■ 公園・緑地 ■ 都市計画公園・都市計画緑地 ■ 運動場等 ■ 古墳・社寺敷地 ○ 神社仏閣等 ■ ウォーキングルート(参考) |
| 土地利用 ■ 低層住宅専用ゾーン ■ 中低層住宅専用ゾーン ■ 一般住宅ゾーン ■ 住・商複合ゾーン ■ 沿道サービスゾーン ■ 商業・業務ゾーン ■ 産業ゾーン ■ 住工共生ゾーン ■ 田園・都市共生ゾーン | |



2. 北東地域

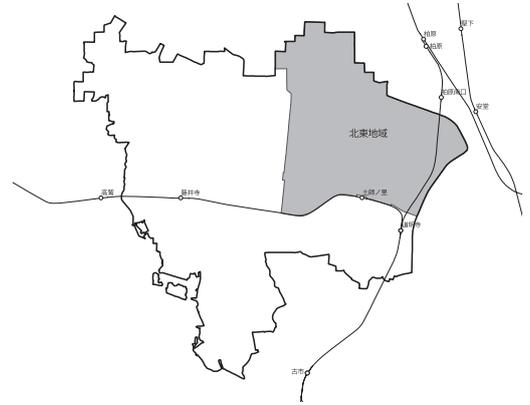
1 地域の概況

北東地域は、地域の北側及び東側は大和川、石川に接し、南北を八尾市、近鉄南大阪線、東西を（都）柏原羽曳野線（国道170号（大阪外環状線））、柏原市に囲まれている地域です。

土師ノ里駅が位置し、（旧）国道170号沿道を中心に商業施設等が立地しています。市立市民総合体育館、青少年運動広場も整備されています。

旧石器時代から中世に至る国府遺跡や、允恭天皇陵古墳の他、伴林氏神社などの歴史文化資産も点在しており、東高野街道が南北に通っています。

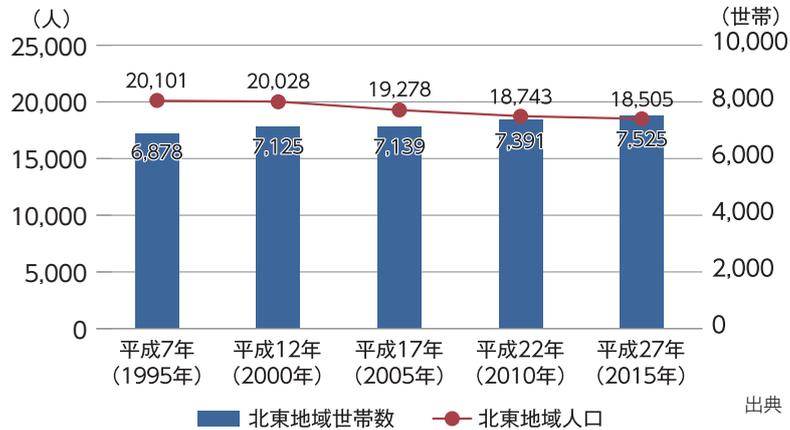
また、梅が園町の街区の整った戸建て住宅地が立地するほか、地域内に事業所も点在しています。



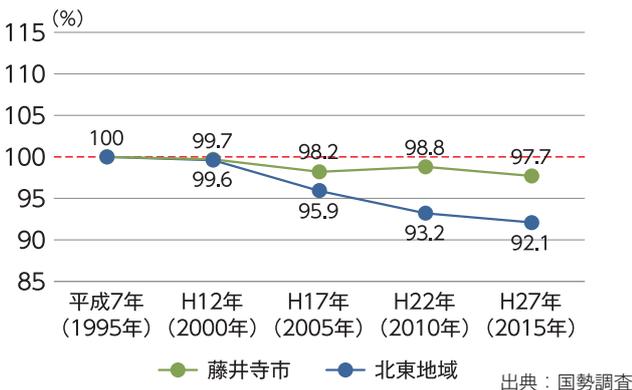
①人口・世帯数の推移

- 人口は平成7（1995）年～平成27（2015）年までは減少傾向です。世帯数は近年特に増加しており、核家族化が進んでいると考えられます。
- 人口の推移は、全市と比較して平成27（2015）年までの人口減少は顕著ですが、概して全市と同様の動向が見られます。
- 年齢別の人口構成については、全市平均とほぼ同様の割合となっています。

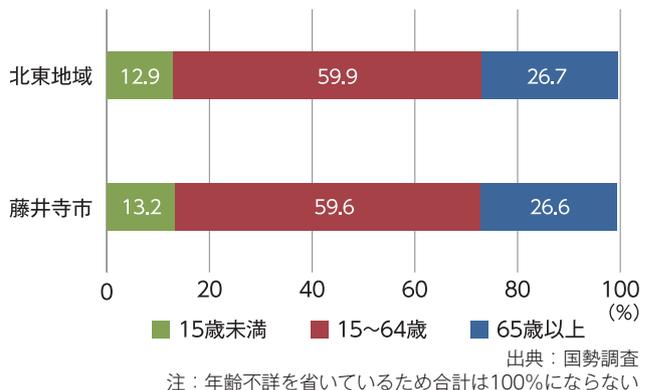
■ 人口・世帯数の推移



■ 人口の推移 (全市との比較)



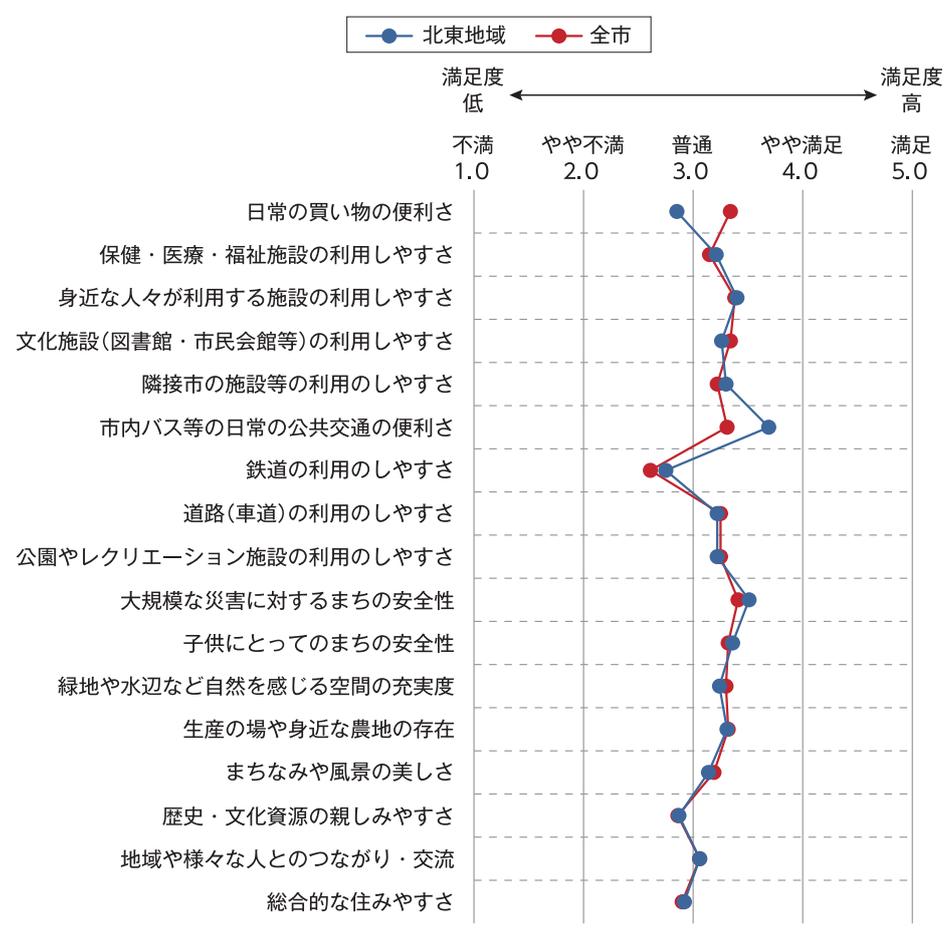
■ 年齢別 人口構成 (平成27 (2015) 年)



② 市民アンケート調査の結果

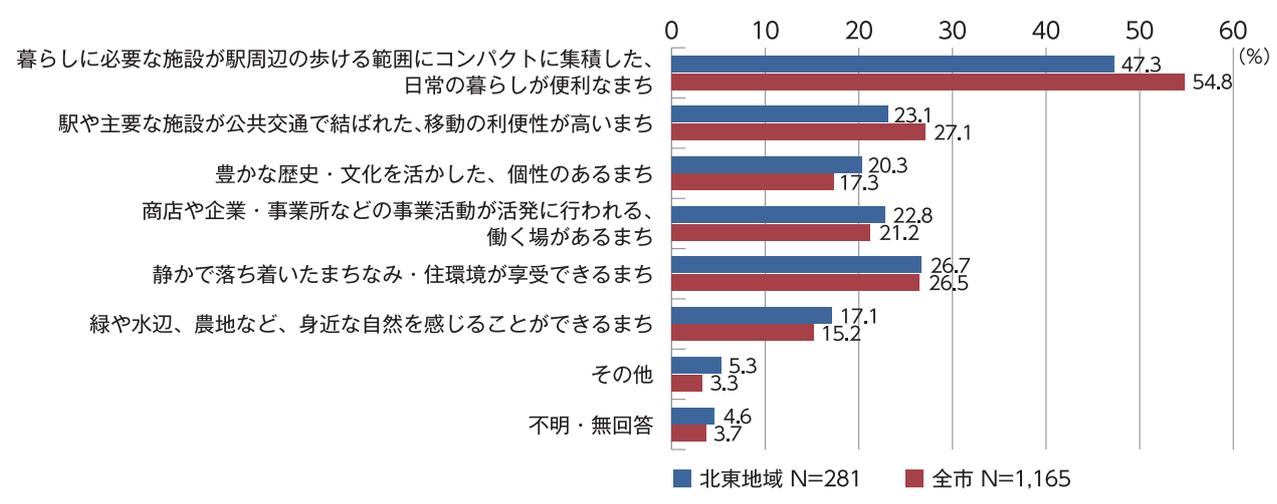
⑦ まちの暮らしの満足度

・北東地域は日常の買い物についての満足度が全市の中で最も低くなっていますが、市内バス等の日常の公共交通の便利さに関しては全市平均と比べると満足度が高くなっています。



⑧ 概ね10年後をイメージした将来の姿

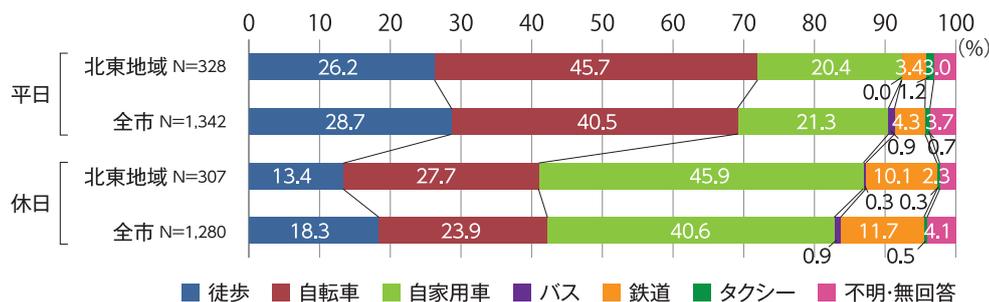
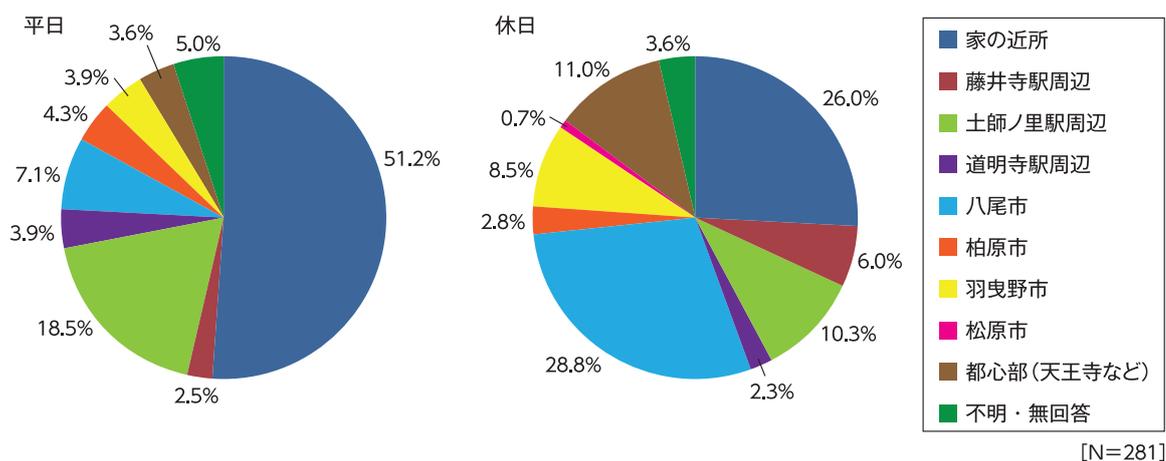
・全市と比較して、豊かな歴史・文化や身近な自然を感じられる回答の割合がやや多くなっています。



㊦ 地域でのふだんの暮らしの様子

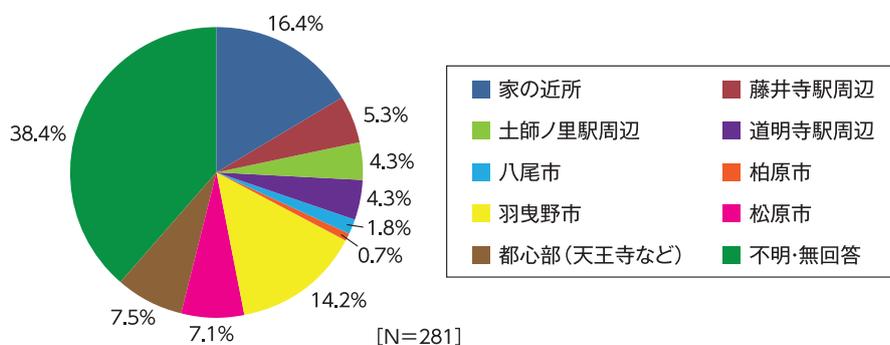
【ウ-1：買い物の利用場所、交通手段】

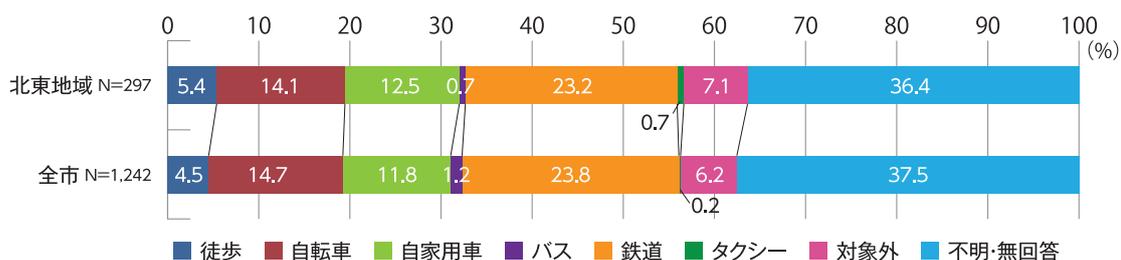
- 平日は自転車を用いる人が45.7%と全市で最も多く、利用場所も家の近所が51.2%となっています。休日には自家用車の利用(45.9%)が多くなり、八尾市への買い物(28.8%)も増えますが、他の地域と比較すると、近所で買い物する人の割合が最も大きくなっています。



【ウ-2：通勤通学の場所、交通手段】

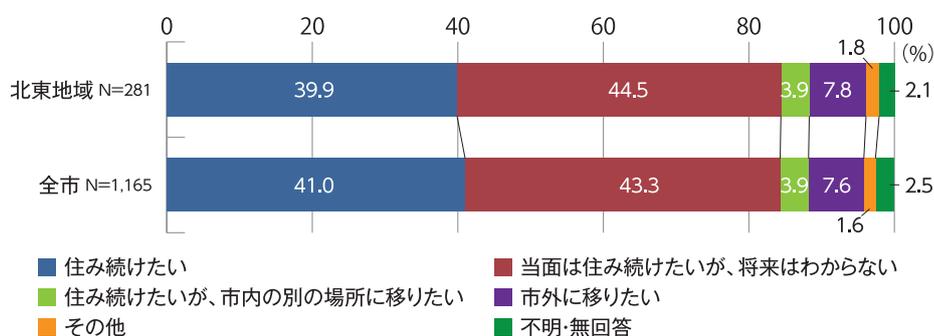
- 通勤通学の場所は全市と同様に家の近所(16.4%)と羽曳野市(14.2%)が多くなっています。
- 交通手段としては鉄道(23.2%)を利用する人が最も多く、全市と同様の傾向です。





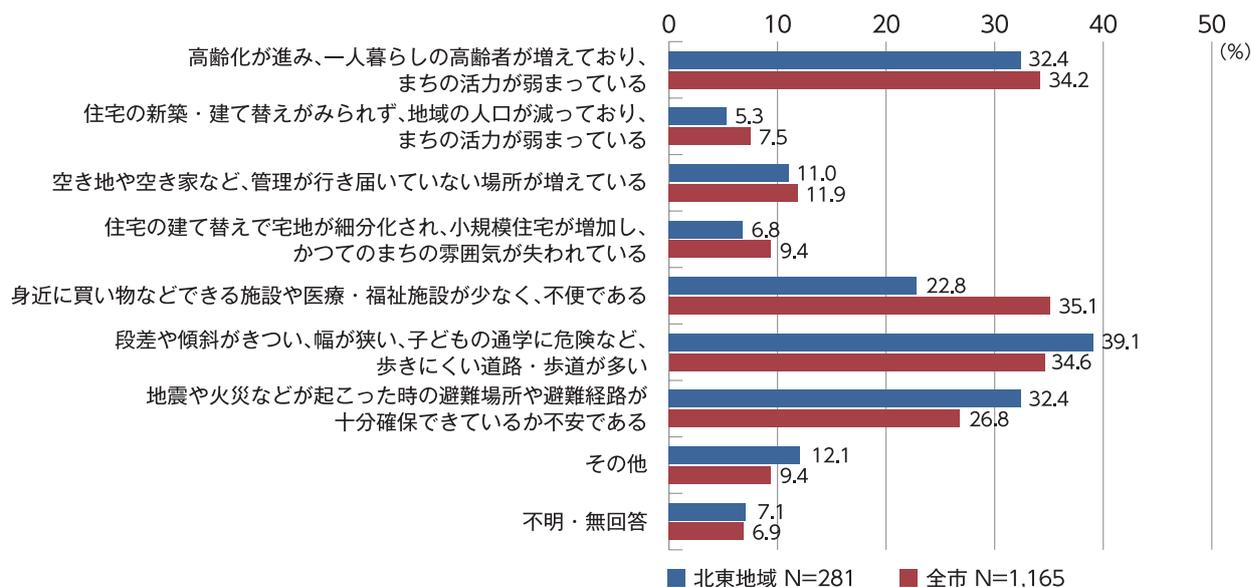
【ウ-3：地域の定住意向】

- 住み続けたいという人が最も多くなっています。なお、その割合(39.9%)は全市の中でも最も小さい割合となっています。



【ウ-4：身近な住環境で生じている課題】

- 高齢化によるまちの活力の弱まり(32.4%)、段差や傾斜のきつさ、道路幅の狭さなどによる道路・歩道の歩きにくさ(39.1%)、避難場所や避難経路の十分な確保への不安(32.4%)が多くなっています。
- 人口の減少によるまちの活力の弱まりについて挙げた人の割合は全市で最も小さくなっています。



【ウ-5：まちづくりに活かしていきたい資源】 ※括弧内は件数

〈人〉

通学時の見守り活動(28) / 挨拶や声かけなど良好な近所付き合い(10)

〈もの〉

古墳(26) / 寺社(18) / 緑や自然が多いこと

〈こと〉

祭り(だんじり・神社でのお祭り)(28) / 清掃活動(6) / 子どもからお年寄りまでの交流

【ウ-6：地域で「気持ちが良い」「ほっとする」ような場所】 ※括弧内は件数

- ・石川(河川敷・サイクルロード)(34)
- ・大和川(河川敷・堤防・土手)(25)
- ・大水川(川・下水処理場・桜並木)(17)
- ・道明寺(36) 等

2 地域の課題

①道路が狭いため移動や緊急車両の通過が困難な部分があり、改善が必要です

- ・もともと農地であったところに散発的に住宅が開発された経緯があることから、道路や公園などのインフラが十分に整わず、特に狭い道路では緊急車両の通過が困難な箇所や、傾斜があるため移動が困難であったりする箇所も少ないケースですが見受けられます。
- ・すでに市街化されている中で抜本的な改善は難しいですが、危険な箇所や人の集まる場所等を中心に改善を検討する必要があります。

②子ども等が安心して遊べる公園等の整備や活用、河川や公園等の適切な維持・管理により魅力の向上を図ることが必要です

- ・地域内に公園が点在しているとともに、大和川や石川の河川敷といったオープンスペースもあり、小学校の校庭開放などの取り組みも行われていますが、利用者ニーズを十分に満足できていません。
- ・大和川、石川に接しており、住民らによるクリーン活動にも取り組まれており、引き続き、河川や公園を地域の資源として、適切に維持・管理しながら、その魅力を活かしていく取り組みが求められます。

③地域の歴史文化資産を活かした取り組みが必要です

- ・允恭天皇陵古墳や国府遺跡、伴林氏神社や黒田神社など、古墳や寺社を中心とした歴史文化資産が点在するのが地域の特徴です。
- ・今後は、それら資産をさらに活かしたまちづくりとして、古墳周辺の回遊性の向上や、水辺を楽しむことができる環境整備などの取り組みが必要です。



④ 駅周辺を中心に生活利便性や魅力の向上を図る必要があります

- ・土師ノ里駅周辺に買い物をする店舗が立地し、古墳の案内表示等が整備されましたが、さらに駅周辺から歴史文化資産や周辺の店舗等へ回遊できるよう、生活利便性や魅力の向上を図る必要があります。

③ まちづくりの将来像

住環境の魅力を高め、安全・安心に暮らせるまち 地域の資源を魅力として歩いて楽しめるまち

北東地域は、大和川と石川にも接しており、土師ノ里駅や(旧)国道170号沿道を中心に、買い物する場が身近にあり、住宅地の他に事業所等も点在するまちとなっています。

その一方で、道路や公園等が住民のニーズを満足していない、安全で安心して暮らせる環境整備が必要といった、主に住環境の向上についての課題があります。

住宅地としての魅力を発揮していくためにも、地域内道路における危険箇所の改善や遊べる場所づくり、さらには身近な環境を住民で美しく保つ活動などを組み合わせながら、子どもや若者、そして大人が集い、いきいきと暮らせるまち、コミュニティのつながりを育むまちをめざします。

また、国府遺跡や允恭天皇陵古墳、伴林氏神社や東高野街道などの歴史文化資産が点在している状況において、地域の魅力としてうまくアピールし、これらを歩いて楽しめるようなまちをめざします。

4 まちづくりの方針

①歩行者が安全で安心して通行できるまちづくり

- 事故の多い箇所、通学路、交通量が多く危険な箇所を中心に、ベビーカー、車いす利用者も含めた歩行者が安全で安心して通行できる道路環境づくりを進めます。

| 行政主体 | 協働 | 市民主体 |
|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • (都) 北条大井線の整備に取り組みます。 • (旧) 国道170号の安全な道路環境づくりを要望します。 • 通学路や通行における危険箇所については、カーブミラーや街路灯の設置、道路改良などによる安全対策に取り組みます。 • 災害時の避難や緊急車両の通行確保のため、主たる生活道路における狭あい部分の解消に取り組みます。 | <ul style="list-style-type: none"> • 地域内の危険箇所や避難路についての点検や意見交換を行います。 • 通過交通に対する対策について地域住民と協議し進めます。 • 道路整備に係る住民との対話・協議の場を設け、道路整備プロセスの透明化を図ります。 • 交通安全、防災、災害応急対策の観点から、狭あい道路の解消に向け地域とともに取り組みます。 • 公共施設循環バスの活用方法を検討します。 | <ul style="list-style-type: none"> • 交通ルールの遵守や意識啓発に取り組みましょう。 • 道路の危険箇所を共有するマップ等を作成しましょう。 |

②公園を含めた河川空間、その他のオープンスペースを活用し、子どもが元気に遊べる空間づくりに向けた住民活動を促すまちづくり

- 身近なオープンスペースが、子どもらが集まり遊びやすい空間となるように、活用のあり方を検討します。
- 住民が身近な公園、河川空間等の使い方について話し合いながら、美しく保ち魅力を高めるための取り組みを協働で進めます。

| 行政主体 | 協働 | 市民主体 |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • 公園だけでなく子どもが安全に遊ぶことができる空間づくりに取り組みます。 • 子どもが遊べる空間の情報を発信します。 • 地域住民等が公園や河川等の管理に関わる仕組みを検討します。 | <ul style="list-style-type: none"> • 公園などを住民と行政で協働しながら魅力的な場所として活用できる方法を検討します。 • 公園以外のオープンスペースの利用方法を検討します。 | <ul style="list-style-type: none"> • 公園や河川空間での清掃・美化活動を行いましょう。 • 子どもたちが安心して遊べるように大人による見守りなど地域でのサポート体制を検討しましょう。 |



③地域の歴史を活かした回遊できるまちづくり

- 允恭天皇陵古墳や国府遺跡などの歴史文化資産を歩いて楽しめるような環境整備を進めるとともに、地域の歴史・文化に触れ、愛着を高められるようなまちづくりに取り組みます。

| 行政主体 | 協働 | 市民主体 |
|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • 古墳周辺の歴史・文化に配慮した都市づくりを進めます。 • 古墳など歴史文化資産をめぐるルートの整備に取り組みます。 | <ul style="list-style-type: none"> • 観光ボランティア等と行政と一緒に、歴史文化遺産をめぐるルートや、歴史文化資産の活用についてPRを行います。 | <ul style="list-style-type: none"> • 住民一人ひとりが身近な歴史・文化の存在を意識するように心がけましょう。 • 地域の歴史文化資産を知ってもらうための歴史の学習や、歴史文化資産を活かした市民活動を行いましょう。 |

④土師ノ里駅周辺を起点にした暮らしやすいまちづくり

- 土師ノ里駅周辺を起点に、古墳の存在を身近に感じ、地域の拠点となるような店舗等の活用方策を検討しながら、地域の暮らしの魅力や利便性の向上につなげるまちづくりを進めます。

| 行政主体 | 協働 | 市民主体 |
|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • 来訪者を受け入れる環境整備のあり方を検討します。 | <ul style="list-style-type: none"> • 駅前の古墳等を人が集まる空間、まちづくりに活用する方法を検討します。 | <ul style="list-style-type: none"> • 駅周辺での店舗等について、地域のにぎわい・交流拠点としての活用方策を検討しましょう。 |

北東地域一方針図

